

平成19年10月5日

報道機関 各位

東北大学大学院薬学研究科

**夜間血圧も
脳心血管疾患発症・死亡の予測に重要である**

東北大学大学院薬学研究科の今井潤教授・大久保孝義准教授・菊谷昌浩助教らの研究グループは、欧州、南米およびアジアの6ヶ国との共同研究により、24時間自由行動下血圧の重要性を示す結果を、今週の英医学誌ランセット誌に発表しますのでお知らせいたします。

本プロジェクトは24時間自由行動下血圧を測定した、岩手県花巻市の大迫研究をはじめ、欧州、南米の6ヶ国の一般住民 7458 人(年齢 57 歳)の10年以上の追跡結果に基づくものである。

本研究により、

- 1, 昼間活動時血圧は夜間就眠時血圧と独立して、脳心血管疾患の発症・死亡を予測した。ただし、降圧薬服用患者において昼間活動時血圧は脳心血管疾患の発症・死亡を予測できず、夜間就眠時血圧のみが脳心血管疾患の発症・死亡を予測した。これは、朝に服用した降圧薬が昼間活動時の血圧は下げるものの、効果が夜間就眠時まで持続しないため、夜間就眠時血圧の血圧を十分低下させ得なかった可能性を示している。
- 2, 降圧薬服用の有無に関わらず、夜間就眠時の血圧は脳心血管疾患の発症・死亡を予測した。

ことが明らかとなり、血圧は24時間に亘って測定されるべきであるとの結論が得られた。

付随する同紙コメント欄にて、パリ大学の Dr Stéphane Laurent 氏は、「本研究は、殊に降圧薬服用中の患者では、夜間血圧の情報が必要であることを示しており、本研究の成果は次の高血圧ガイドラインに大きな影響を与えるだろう。」と述べている。

【お問い合わせ先】

東北大学大学院薬学研究科医薬開発構想寄附講座
准教授 大久保 孝義 (Takayoshi Ohkubo), MD, PhD
住所 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1
東北大学医学部 5 号館 7 階コラボスペース内
Tel 022-717-8590
Fax 022-717-8591